

Annual Report

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER
Department of Vascular Surgery

平成29年度 成績報告

関西医科大学総合医療センター 血管外科

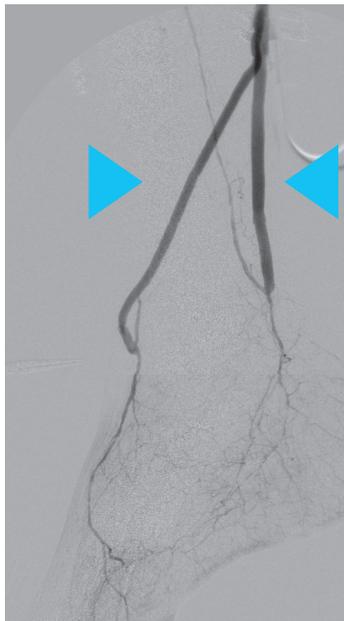
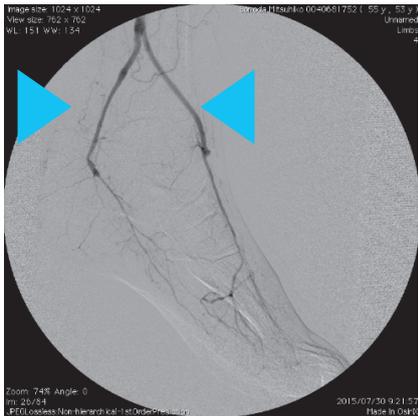
3. トピックス

●高井佳菜子医師、赴任

平成29年4月より5人目の医局員として高井佳菜子先生が仲間に入りました。千葉大学出身で東京、北海道で研修を行って来ました。現在は病棟業務、手術、学会活動にと、若さを武器にがんばっています。どうぞよろしくお願ひします。



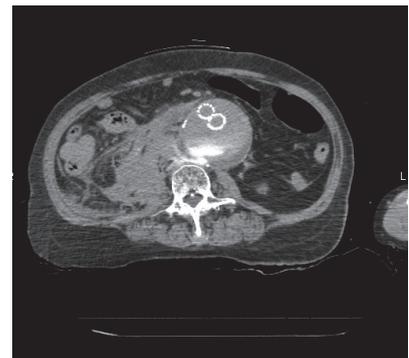
●Dual distal bypassの適応



重症下肢虚血の治療として下腿動脈へのバイパスは有効な方法ですが、足背側、または足底側へのバイパスのみでは救済できないような高度な虚血、感染合併例には足背足底いずれもの血流を維持するdual distal bypassが有用であることを報告してきました。しかしむやみにこの術式を使うことは控えることも重要で、我々はどのような症例に必要なかを検討してきました。当科での経験から①初回バイパスの技術的不成功を補うため、②血管内皮損傷部位に対するbackupのため、③初回バイパスの血流不足を補うため、の3つの適応を提唱しました。当科・坂下医師が第48回日本心臓血管外科学会にて報告しました。

●ハイブリッドERでの腹部大動脈瘤破裂に対する緊急ステントグラフト治療

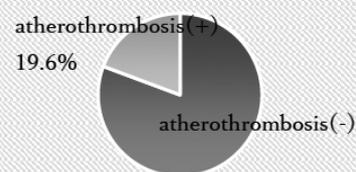
当院救命救急センターには初療室にCTと血管造影機器を設置したハイブリッドERがあります。重症救急患者はここでベッド移動なく初期治療、CT撮影、血管造影検査、血管内治療が可能です。昨年はこのERで腹部大動脈瘤の破裂症例5例に対し血管内治療であるステントグラフト治療を行いました。血行動態の急変がありうる患者ばかりでしたがCTによる診断から治療まで非常にスムーズに施行され、全例救命することができました。わが国でもまだ数施設にしかないハイブリッドERと、救命救急センターとの連携によりこのような致死率70%の症例も救命できるようになりました。



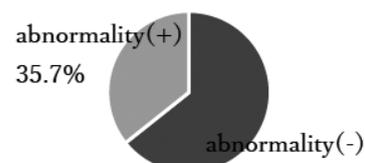
● 軽症閉塞性動脈硬化症に対する動脈硬化症スクリーニング検査の有用性

当科が2013年より実施している動脈硬化症早期発見スクリーニング検査である「統一血管病早期発見プログラム」の有用性を検討したところ、軽症の閉塞性動脈硬化症の中では約20%に冠動脈や脳血管などの病変が新規に発見されました。またフォローアップの必要な異常検査値の発見された例も36%にのぼりました。閉塞性動脈硬化症は他の血管床にも病変のある可能性が約40%とも言われますが、観血的治療の必要のない跛行症例などの軽症例でもこのぐらいの割合で病変が潜在していることとなります。閉塞性動脈硬化症は全身病であることをよく認識した上で足だけではなく全身を診ていくことが重要であることを再認識しました。高井医師がこの内容を第58回日本脈管学会において報告し、優秀論文賞を受賞しています。

動脈硬化性血管病の併存率



異常検査値の併存率



● 恒例の当科主催イベント、本年も開催



毎年行われている一般市民の血管年齢無料健診イベント「TAKE! ABI in KANSAI」が今年も病院本館エントランスロビーで平成29年10月1日に施行されました。400名を超える一般参加者は過去最高で、市民公開講座では動脈硬化症の恐ろしさ、それに対抗するための運動の重要性をお伝えしました。また平成30年1月28日、こちらも恒例の若手外科医に対する手術手技セミナーである「関西血管外科基本手技ビデオセミナー」が開催されました。本年は新専門医制度の委員でもいらっしゃる川崎医科大学心臓血管外科教授の種本和雄先生を特別講師にお招きし、心臓血管外科専門医制度についてのご講演を賜りました。今後専門医を目指す若手血管外科医にとっては非常に意義のあるセミナーになったかと思われます。

4. 研 究

①論 文

1. Komai H, Sakashita H, Miyama N, Yamamoto N. Technique of duplex scanning for selection of optimal peripheral anastomosis site for distal bypass EJVES Short Reports 35 ; 16-8 2017.
2. 駒井宏好 末梢動脈疾患の治療と多職種連携 総合リハビリテーション 45 ; 801-6 2017
3. 坂下英樹、大久保 縁、谷村裕嗣、山本暢子、山尾順、深山紀幸、駒井宏好 コメディカルによる足病変早期発見への取り組み：「滝井フットスキャン」の評価 日本フットケア学会雑誌 15 ; 65-8 2017
4. 駒井宏好 下肢虚血に対する外科的治療 MEDICAL REHABILITATION 211 ; 21-28 2017

②学会発表その他

【国際学会】

1. Hiroyoshi Komai Symposium 1 DM foot and Critical limb ischemia, Paramalleolar and inframalleolar distal bypass for CLI in diabetic patients. The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery, Busan 2017
2. Nobuko Yamamoto, Noriyuki Miyama, Hideki Sakashita, Hiroyoshi Komai Vascular reconstruction for Burger' s disease. The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery, Busan 2017
3. Hiroyoshi Komai Peripheral Artery Forum Open surgery for peripheral artery disease, when and how. Taiwan Society for Vascular Surgeon 2017 annual meeting, Taipei 2017
4. Nobuko Yamamoto, Hiroyoshi Komai, Noriyuki Miyama, Kanako Takai, Hideki Sakashita. Possibility of perfusion index as an early indicator of subclinical critical limb ischemia in peripheral artery disease. European Society of Vascular Surgery 2017 annual meeting, Lyon 2017

【総 会】

◆特別発表

1. 久保田眞由美、駒井宏好、後藤さやか、東野亮太、山本克浩、木村 穰
当施設におけるASO患者の関わりについて
～心臓リハビリテーション指導士の力～
メディカルスタッフ特別シンポジウム「集結！血管病診療におけるメディカルスタッフの力」
第45回日本血管外科学会 広島 2017
2. 駒井宏好 指定討論者 優秀演題「Distal bypass術後狭窄に影響を及ぼす因子の検討」
第48回日本心臓血管外科学会 津 2018

◆一般発表

1. 深山紀幸、駒井宏好、坂下英樹、山本暢子

- 凝固異常を合併した異時性発症の両側重症下肢虚血の2例
第45回日本血管外科学会 広島 2017
2. 坂下英樹、山本暢子、深山紀幸、駒井宏好
足背動脈—大伏在静脈による内シャント造設
第45回日本血管外科学会 広島 2017
3. 坂下英樹、山本暢子、深山紀幸、駒井宏好
維持透析患者のブラッドアクセス肢に発症した鎖骨下静脈閉塞に対し自家静脈バイパスを作製した1例
第37回日本静脈学会 徳島 2017
4. 山本暢子、高井佳菜子、深山紀幸、坂下英樹、駒井宏好
孤立性深大腿動脈瘤に対し人工血管置換術を施行した2例
第58回日本脈管学会 名古屋 2017
5. 高井佳菜子、山本暢子、深山紀幸、坂下英樹、駒井宏好
軽症PADおよび動脈硬化症高リスク者に対する動脈硬化スクリーニング検査の有用性
第58回日本脈管学会 名古屋 2017
6. 坂下英樹、深山紀幸、山本暢子、高井佳菜子、駒井宏好
重症虚血肢に対するdual distal bypassの適応
第48回日本心臓血管外科学会 津 2018

◆座 長

●駒井宏好

1. ビデオシンポジウム1 重症虚血肢に対するハイブリッド治療
第45回日本血管外科学会 広島 2017
2. パネルディスカッション2 新たな治療法と体制の構築に向けて
第2回日本リンパ浮腫治療学会 大阪 2017
3. 特別企画1 重症虚血肢に対する集学的アプローチ～メディカルスタッフの果たす役割～
第58回日本脈管学会 名古屋 2017
4. 一般口演 末梢1
第48回日本心臓血管外科学会 津 2018

③講 演

●駒井宏好

1. いかに透析患者の足を救えるか
～血行再建の工夫～
第8回メッサーザイテの会 基調講演 東京 2017.5.27
2. Distal bypassにおける血管露出と吻合のknack and pitfalls
第10回関東バスキュラー倶楽部 特別講演 東京 2017.6.3
3. 見過ごしてはいけない 静脈血栓塞栓症の診断・治療法
第312回枚方市・交野市医師会学術研修会 特別講演 枚方 2017.6.17
4. VTE診療の現状とこれから 治療 外科治療を中心に
第7回関西CVT連絡会 大阪 2017.7.1
5. 救肢のための血行再建の工夫
第23回九州血管疾患制御シンポジウム 特別講演 宮崎 2017.8.26

6. Recent trend in PAD treatment in Japan
BERASIL 20th Anniversary Symposium Seoul 2017.9.9
7. PADの下肢救済
～血管外科医にできることは？～
第2回日本下肢救済・足病学会中四国地方会 ラン
チョンセミナー 岡山 2017.9.16
8. 心臓血管外科専門医制度について
第5回関西血管外科倶楽部 ショートレクチャー
大阪2017.9.30
9. 足の病気が命を守る？ 動脈硬化早期発見の重要性
TAKE! ABI 2017 in KANSAI 市民公開講座 枚方
2017.10.1
10. 静脈疾患の最新治療
～心臓血管外科医として必要な知識～
第42回北陸血管症例検討会 特別講演 金沢 2017.10.7
11. 末梢静脈疾患の治療
第19回診断技術向上セミナー・2017年第4回血管無侵襲
診断セミナー 名古屋 2017.10.21
12. 透析患者の下肢末梢動脈疾患について
東播磨透析フォーラム 特別講演 加古川 2017.10.26
13. 救肢に向けた血管外科医の工夫
Endovascular Conference in Aichi 特別講演 名古屋
2017.12.2
14. 医師、メディカルスタッフ、地域医療者によるトータル
フットケアの実践
第2回日光血管セミナー 特別講演 日光 2018.2.9
15. 糖尿病足病変の救肢に向けた多職種での取り組み
第16回糖尿病フットケア研究会 福岡 2018.2.16
16. 足の症状から命を守る
～閉塞性動脈硬化症早期発見の意義～
大阪西部下肢血管病セミナー 特別講演 1 大阪
2018.2.24
17. 侮れない足のむくみ・腫脹
～深部静脈血栓症の診断と治療～
大阪西部下肢血管病セミナー 特別講演 2 大阪
2018.2.24
18. 下肢動脈手術：基本手技から困難症例の克服法まで
日本血管外科学会 東海北陸地方会 ランチョンセミ
ナー 大垣 2018.3.3
19. 糖尿病足病変の早期発見をめざした多職種チーム医療
第3回奈良北和地区足を学ぶ会 特別講演 奈良
2018.3.3
20. 放っておいてはいけない！下肢動・静脈疾患の最新治療
北河内Vascular Forum 特別講演 大阪
2018.3.10

● 大久保 縁

1. フットケアにおける地域連携の実際
第2回 日光血管セミナー 特別講演 日光 2018.2.9

<当科医局員出張、外勤先（定期、非定期を含む）>

1. 関西医大香里病院（寝屋川）
2. 暁生会脳神経外科病院（四条畷）
3. 交野病院（交野）
4. 吉田病院（枚方）
5. 小野山診療所（守口）
6. 上山病院（寝屋川）
7. 大阪赤十字病院（天王寺区）
8. 羽原病院（泉佐野）
9. 森小路清水会クリニック（旭区）
10. 白鷺病院（東住吉区）
11. 寝屋川生野病院（寝屋川）
12. いぶきクリニック（門真）
13. 大野記念病院（西区）
14. 宝持会池田病院（東大阪）
15. 大和橿原病院（橿原）

あとがき

当年度を終え、私が関西医科大学に着任して5年が経ちました。5年、といえば一区切り、何かをやり遂げる一つの段階です。この5年間で私たちに何ができたか、段階を一つ駆け上がったのか、自身ではわかりません。しかし周囲を見ると症例は少しずつですが増加し、医局員も増え、学会活動、講演依頼も当初からは数段レベルアップしてきました。しかし何より大事なのは地域の患者さん、そしてその方々を診療していらっしゃる家庭医の皆様のおちからになっているかどうか、です。昨今私自身は学会の仕事や地域の講演会、臨時の出張診療などで病院をあけることが多くなり、下級医師に診療は任せることが多くなりました。幸いなことに下級医師によってもほとんど成績が変わらなくなってきており、当科診療の総合力が上がっていると自負しております。

また外勤先の数をできるだけ増やし、各地域で足の悪い患者さんの血管外科診療へのアクセスを良くすることも行っています。本年度は院内で血管処理に困った他科の手術を応援したり、動かせない患者の緊急処置に他病院にお手伝いに行ったりしました。フットワークの軽い大学病院診療科をめざしております。

臨床だけでなく研究面でも成果が上がってきた年でした。山本医師が研究しているPIによる重症化早期発見はある程度を目安となる値が得られこれをヨーロッパ血管外科学会で発表できました。我々の閉塞性動脈硬化症治療方針が台湾や韓国でも評価され国際学会での招請講演も行いました。深山医師が主体となり関西地区の血管外科施設と2本、全国の血管外科施設と1本、坂下医師が担当して全国の血管外科施設と3本の多施設共同研究を走らせています。国内外の血管外科の進歩に追隨して新しい知見を得ていこうと考えています。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

平成30年夏

関西医科大学総合医療センター 血管外科
教授 駒井 宏好



KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER